

MI·RA·Is 2024/秋号 Vol.27

ユーザーフォーラム通信

特集 第19回 MI·RA·Isユーザーフォーラム大会

■基調講演

『医療DXにおける社会保険診療報酬支払基金の取組み』
社会保険診療報酬支払基金 本部情報化企画部 次長
杉本 由紀雄 様
社会保険診療報酬支払基金 情報化企画部 企画調査役
黒川 大輔 様

座長

日本海総合病院 副院長 菅原 重生 様

■事例発表

『医療DXにおける電子処方箋の積極的導入』
白山石川医療企業団 公立松任石川中央病院 副企業長
横山 邦彦 様

『新しい診療支援システムとMI·RA·Is Vとの連携に向けて』
独立行政法人地域医療機能推進機構 北海道病院 病院長
古家 乾 様

『医療DXの最前線』

医療法人社団DEN みいクリニック 理事長
宮田 俊男 様

『生成AIによる看護サマリー自動生成に挑戦！』

社会医療法人 祐愛会 織田病院 情報管理室 課長
森川 伸一 様
社会医療法人 祐愛会 織田病院 事務管理部兼地域連携センター 副部長
重松 かおり 様

『医療DXにおける電子カルテの対応』

株式会社シーエスアイ 事業推進本部 本部長
大関 伸介 様

座長

医療法人社団 札幌道都病院 副院長
矢嶋 知己 様
社会医療法人 高橋病院 法人情報システム室 室長
滝沢 礼子 様

高橋 肇 会長

社会医療法人 高橋病院

テーマ「医療DX」～電子カルテの現状と未来

第19回目となる今回は、テーマを「医療DX ～電子カルテの現状と未来」と題し、電子カルテの現在の状況と未来の展望について、様々な事例の元、発表をいただきました。基調講演には、社会保険診療報酬支払基金の専門家をお招きし、医療DXの最新情報と将来の見通しについてお話しいただき、医療従事者や医療に興味のある方々にとって、電子カルテの進化や未来の医療のあり方を学ぶ絶好の機会となりました。

「医療DXがもたらす、未来の医療インフラ」

Information

杉本 由紀雄 様 (写真左)
 社会保険診療報酬支払基金
 本部情報化企画部 次長

黒川 大輔 様 (写真右)
 社会保険診療報酬支払基金
 情報化企画部 企画調査役



社会保険診療報酬支払基金 情報化企画部 杉本様・黒川様にて、医療DXの運用主体であるオンライン資格確認等システムを基盤とした全国医療情報プラットフォームを構築する目的、実現に向けた工程をご説明いただきました。

杉本様には、医療DXの基盤となる、マイナ保険証の制度概要に加え、利用促進へ向けた具体的な取り組みを紹介いただき、医療DXが加速することによる私たちの生活へのメリットをイメージすることができました。

黒川様には、支払基金が開発・運用主体である電子カルテ情報共有サービスのロードマップ(運用開始時期、検証時期など)をご説明いただき、共に、診療報酬改定の医療DX関連加算による医療機関への評価・支援体制を再確認する機会となりました。

「マイナ保険証のメリット」

マイナ保険証を活用するメリットとして、①医療費節約 ②より良い医療の提供 ③高額医療費の限度額以上の支払い免除があげられました。そして、現行の健康保険証新規発行が終了し、マイナ保険証の仕組みに移行する本年12月に向け、安心してマイナ保険証を利用するための施策であるマイナ保険証利用促進宣言について説明頂きました。具体的には、健康保険証廃止後の資格確認書の取り扱い、マイナンバーカードの健康保険証利用登録は任意の手続きであり、利用登録の解除が可能であること、保険者による迅速かつ正確なデータ登録(誤入力チェックシステム「E照会」といった内容でした。

「マイナ保険証への円滑な移行に向けた取り組み」

マイナ保険証の利用促進を目的として、今年の5月から7月にかけて「マイナ保険証利用促進集中取組月間」が実施されました。この期間中、医療機関の窓口での案内や、患者への声かけ、マイナ保険証利用を呼びかけるチラシの配布が行われ、各都道府県でマイナ保険証の利用実績向上を目指した施策が展開されました。

マイナ保険証は、医療DXの利便性を最大限に引き出すための重要なツールであることを再認識し、今年12月以降の本格的な運用開始に向けて、さらなる理解と協力が求められています。

なお、マイナ保険証をまだ取得されていない方々に対しては、申請の有無にかかわらず、資格確認書が提示される予定です。これにより、今年月以降も、マイナンバーカードの取得状況や健康保険証の利用登録にかかわらず、医療機関を受診できる体制が整えられます。

「電子カルテ情報共有サービスとは」

電子カルテ情報共有サービスとは、全国医療情報プラットフォームの一端として、医療機関間で文書のオンライン送信、診療に必要なカルテ情報の共有に加え、マイナポータルでの自己情報閲覧(E照会)等を可能とするサービスのこと。主たるサービスは、①診療情報提供書送付サービス ②健診結果報告書閲覧サービス ③情報(傷病名・薬剤アレルギー・その他アレルギー・感染症・検査・処方情報)閲覧サービス ④患者サマリー閲覧サービスです。これらの情報は、①E照会規格への準拠 ②標準コードの利用 ③リアル

タイム登録・取得を大原則とすることで、標準化された医療情報を保険者・病院・クリニック・薬局・健診施設・行政などの間でタイムリーに共有できる未来を目指しています。なお、電子カルテ情報共有サービスは施設基準と算定要件となっており、診療報酬改定にて医療DX推進体制整備加算を新設されるなど実現へ向けた施策が進められています。また、医療機関への補助として電子カルテ情報標準規格準拠対応事業が本年3月から受付開始され、電子カルテベンダーへも対応が求められています。

オンラインによる資格確認
 健康保険証や医療扶助の保険資格をオンラインで有効性確認が可能に

医療データによる質の向上
 診療/薬剤情報や健診情報等を開覧し、医療の質の向上へ

医療DXによる業務効率化
 電子処方箋や電子カルテ情報の共有等によりシームレスなコミュニケーションへ

データ活用による健康増進
 国民・患者が自身の医療データを閲覧・活用し、健康増進へ

※図：厚労省「オンライン資格確認の次は電子処方箋！」より引用

5団体によるの事例発表

医療DXに関する5つの発表では、デジタル化が医療現場にもたらす恩恵や、またその課題などを詳しく探った発表が行われました。電子処方箋の導入による業務の効率化と利便性の向上や、診療支援システムと電子カルテの連携がもたらす医療支援の進化の紹介や、生成AIによる看護サマリー取り組みなど、医療DXの最前線として最新技術の成果について詳しく説明していただきました。今回はその一部をトピックとしてお伝えいたします。

CASE STUDY



「医療DXにおける電子処方箋の積極的導入」

白山石川医療企業団 公立松任石川中央病院
副企業長 横山 邦彦 様

H P K I セカンド電子証明書を用いた電子処方箋の導入状況について紹介していただきました。スマホを活用したリモート電子署名や、地域ごとの対応状況など、医療現場での実用化の現状や、今後の展望などを詳しく解説していただいております。

CASE STUDY



「新しい診療支援システムとMI・RA・Is Vとの連携に向けて」

独立行政法人地域医療機能推進機構 北海道病院
病院長 古家 乾 様

JCHO北海道病院が導入した新しい診療支援システムと、電子カルテとの連携に関する取り組みが紹介されています。新システムにより、カンファレンスの時間短縮など、医療DXの推進に向けた業務効率化などを詳しく解説していただいております。

CASE STUDY



「医療DXの最前線」

医療法人社団DEN みいクリニック
理事長 宮田 俊男 様

デジタル技術を活用したオンライン診療や患者のセルフケア支援、医療現場の効率化を目指した取り組みについて紹介していただきました。また、地域医療の課題を解決するための新しいモデルの提案などを詳しく解説していただいております。

CASE STUDY



「生成AIによる看護サマリー自動生成に挑戦！」

社会医療法人 祐愛会 織田病院
情報管理室 課長 森川 伸一 様
事務管理部兼地域連携センター 副部長 重松 かおり 様

生成AIを活用した看護サマリー自動生成について紹介していただきました。AIによる看護サマリーの精度向上を目指すプロジェクトの経緯や、電子カルテとの連携など、今後の展望をふまえた内容を発表いただいております。

CASE STUDY



「医療DXにおける電子カルテの対応」

株式会社シーエスアイ
事業推進本部 本部長 大関 伸介 様

MI・RA・Isの医療DX対応状況や最新機能、さらに今後予定されている機能拡充について詳細に紹介されています。またサイバーセキュリティ対策やインフラ評価についても説明していただいております。



座長のご紹介

基調講演、また事例発表の座長をお務めいただき、ありがとうございました。講師や演者の方々とスムーズなやり取りにも感謝申し上げます。



日本海総合病院 副院長
菅原 重生 様



医療法人社団 札幌道都病院
副院長 矢嶋 知己 様



社会医療法人 高橋病院
法人情報システム室 室長
滝沢 礼子 様

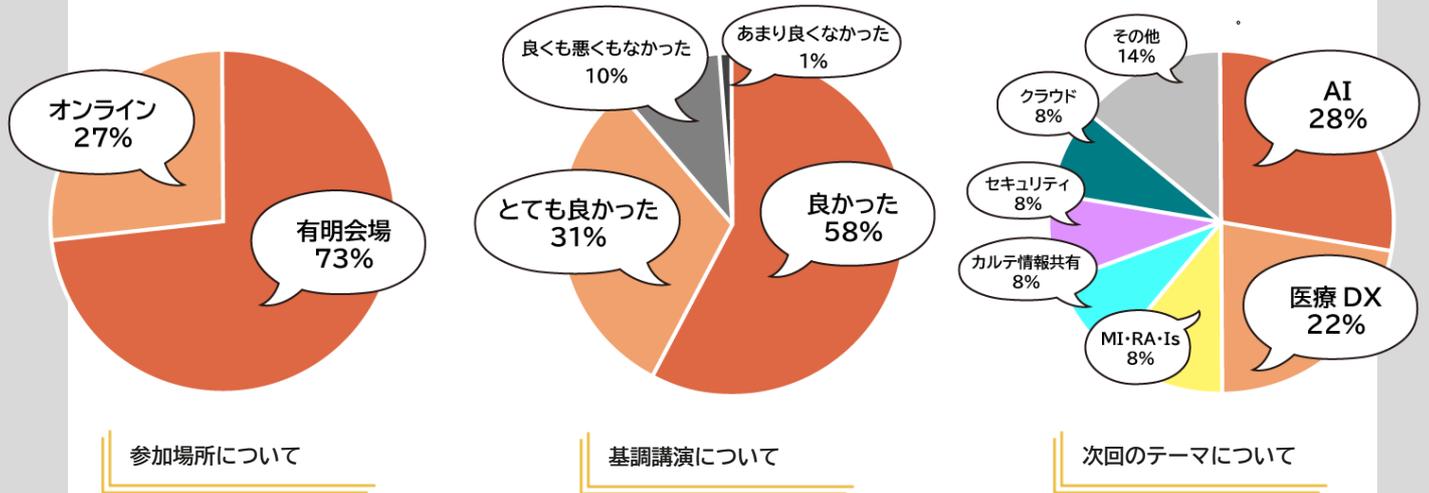


第19回
MI・RA・Is
ユーザーフォーラム大会
アンケート結果！

大会にご参加いただき ありがとうございました！

第19回MI・RA・Isユーザーフォーラム大会にご参加いただき、ありがとうございました！
今年の参加人数は 294 名となり、昨年よりも多くの方にご参加いただけましたこと、
本当に感謝申し上げます。

また、アンケートへのご回答につきましても、ご協力いただきありがとうございました。
結果を踏まえ、次回、第20回MI・RA・Isユーザーフォーラム大会に活かせるよう検討して参ります。



参加場所について

基調講演について

次回のテーマについて

みなさまの声

RPA の対応について詳しく知りたい

生成 AI をもっと詳しく知りたい。

MIRAIs の活用方法について聞きたかった。

医療 DX について進捗や動向を共有してほしい。

事例発表の時間が短かったです。

サイバーセキュリティに関する内容を盛り込んでほしい。

編集後記

有明での開催が2回目となり、事務局としてはまだ不慣れな点もありましたが、昨年を上回る方にご来場いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

来年は20周年と節目の年でございます。まだ改善の余地が多くございますが、来年に向けてさらに準備を整え、より充実した内容でお届けできるよう、事務局一同取り組んで参ります。

MI・RA・Is ユーザーフォーラム事務局

MI・RA・Is
ユーザーフォーラム事務局

株式会社シーエスアイ 事業推進本部

TEL : 03-5944-6120

FAX : 03-5944-6122

E-mail : csi-jisui@csiinc.co.jp

https://mirais.csiinc.co.jp/

ユーザーフォーラム
サイトはこちらから

